



シフトを念頭に環境改善 センターと本社機能を「一体化」



在宅制度の推奨から、オフィスをコンパクト化。本社とセンターの一体化で見通しの良いレイアウトを実現させた。DXも同時に推進し、在宅で業務にあたるスタッフの管理も円滑になった

センタープロフィール

- センター名称：目黒本社・目黒センター
- 所在地：東京都品川区上大崎 3 1 JR東急目黒ビル 8F
- 延床面積：約937.35㎡
- 設備構成：オペレーションエリア×1、研修・プレゼンテーションルーム、会議室×6、個室ブース×4、テレワークブース×1、休憩室・食堂×1、ロッカールーム×2
- 在籍人数：163名（本社：92名、センター：71名）
- ブース数：96席（本社：56席、センター：40席）
- 業種・業態：主に、スカパー業務の受電センター
- 運用開始時期：2020年10月

受賞コメント

東京オリンピックに向けたリモートワークの推進をもともと予定していたとはいえ、コロナ禍における働き方の大きなシフトは多くの人にとって精神的にタフなものでした。受賞できたことも嬉しいですが、多くの人がコロナ禍以前よりも働きやすいオフィスを構築できたことが何よりも財産だと感じております。

講評

コロナ禍のなか、稼働率の下がったオフィスの新しい在り方を模索し、具現化している。とくに特徴的なのは、それまで個別に配置されていた本社機能とセンター機能が、壁も設けずに同居して一体化している点です。組織を超えた横断的なコミュニケーションの実現により、オフィス環境そのものの存在価値が向上している点を評価します。



集中できる個人用ブースを用意



休憩室をリニューアル



在宅者との会議を見越し、小回りの利く会議室も用意



新たに設けた飲料スペースは雑談の場にもなっている